

## 平成 30 年度 第 5 回 理事懇談会 抄録

日 時 : 平成 30 年 12 月 9 日 (日) 12 : 00 ~ 13 : 30  
場 所 : 田町カンファレンスルーム  
出 席 : 理 事 : 半田、内山、斉藤、森本  
網本、伊藤、植松、梶村、黒澤、白石、大工谷、高橋 (哲)、高橋 (仁)  
田中、谷口、知脇、中前、藤澤、松井、山根、吉井  
監 事 : 太田、長澤、辺土名  
欠席者 理 事 : 中川  
監 事 : なし

### I. 協議事項

(全 1 題)

#### 1. 学会法人化の中間とりまとめについて (内山副会長)

学会法人化検討委員会では、学会法人化の是非や方法について検討中で、11 月までに 2 回の委員会を終了したところである。当初の年度末報告を前倒しして年内に途中経過を提示するよう会長の指示があったことを受け、中間とりまとめとして経過報告が示された。

その中で、「学会を法人化する場合の具体的な議論」が列挙され、主な論点について、説明がなされた。

##### 【提出者の意見】

- ・ 今回の中間とりまとめ案への議論と方向性を共有の上、2019 年 3 月の最終答申提出に向けて調整したい。

##### 【主な意見】

- 中間とりまとめ案でも記載がある通り、実質的な会費の値上がりにつながらないようにすべきである。
- 分科学会ごとに法人化すると、法人登記更新や会計処理業務等の事務的負担により事務効率が下がるのではないか。また、運営費用についても同様なことがいえるのではないか。
- 法人化することによるメリットとデメリットを示す必要がある。
- 分科学会・部門の再編案が示されたが、一度分散させた学会を再度統合するにあたっては、納得できる理由を示す必要がある。
- 医学会のように、将来的には分科学会をまとめる組織 (連合体) が必要になるかもしれない。今後検討が必要。

学術と職能の連携、科学の追求という 2 つの大きな視点から、最終案作りに向けて調整することになった。